

ロシア 東欧 経済速報

(社) ロシア東欧貿易会

2005年（平成17年）6月15日号 No. 1331

目次

●流動化する中央アジア情勢	輪島 実樹 1
(2005年6月2日ROTOBOメンバーズ・ブリーフより)	
●エトセトラ	11
アルメニアとの円卓会議のご案内／11	
●ロシア東欧貿易会関連の行事予定	11
●CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	11

流動化する中央アジア情勢

(2005年6月2日ROTOBOメンバーズ・ブリーフより)

はじめに

本日は、この5月にウズベキスタンのアンディジャン市で起きた事件を中心に、CISで相次ぐ政権交代に連動し流動化の様相深まる中央アジア情勢の現状と、その国際的影響へと話を進めたい。

5月13日に事件が発生したアンディジャン市は、キルギス・タジキスタンと複雑に国境が入り組む、ウズベキスタン東部のフェルガナ盆地に位置する（地図参照）。同地方は乾燥した中央アジアの中では例外的に水に恵まれ、シルクロードの昔から人が集住し、農耕と交易等で栄えてきた。現在もウズベキスタンの国土面積の約4%を占めるに過ぎないフェルガナ3州に、全人口の約三分之一が集中している。若年層における失業が大きな問題となっており、生活条件悪化に対する住民の不満のうっ積から、中央アジアの火薬庫となる恐れが従来から指摘されていた。

ウズベキスタンと“イスラム過激派”

まず初めに、今回の事件（仮にアンディジャン事件と呼ぶ）の経緯を確認しておきたい。事件自体の発生は5月13日だが、報道によれば5月11日頃より、アンディジャンではその前段とも呼ぶべき市民の政府に対する抗議行動が盛り上がりを見せていた。当局に“不当逮捕”